

Weekly Report

ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO



創 立：1980年(昭和55年)1月10日
 会 長：泉 憲一
 幹 事：亀井 直人
 広報委員：山口 哲司
 例 会 日：毎週木曜日PM12:30～
 会 場：ヒルトン名古屋

事 務 局：460-0008
 名古屋市中区栄1丁目3-3 ヒルトン名古屋910号
 T E L：052-211-3803
 F A X：052-211-2623
 M A I L：2760_nagoya@mizuho-rc.jp
 U R L：http://www.mizuho-rc.jp/

第1648回例会

～みんなに豊かな人生はどうか考える月間～
 クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2014年5月22日(木) 晴 第44回

司 会：田中宏会場委員
 齊 唱：「四つのテスト」「それでこそロータリー」
 ビジター：クハウセントラルRC ピンセント・レイさん
 名古屋和合RC 榎野智之さん

会長挨拶

泉憲一会長

みなさん、こんにちは。今日はアレルギーについてお話ししたいと思います。

よく鼻水やクシャミが止まらなくなったり、目が赤く充血して涙が出たり、卵やソバを食べると発疹が出る、などの症状を訴える人が、近年増えています。こういったことが一般的に「アレルギー」と呼ばれる症状です。



つい40年ほど前まで、アレルギーは日本では、それほど多い病気ではありませんでした。また、アレルギーを専門領域として、研究する医師も少なかったですし、アメリカに勉強に行った医師は、アレルギー外来窓口が毎日患者であふれかえるのを目にして、驚いたという話が残っているほどです。それが今では、日本も、当時のアメリカ並みどころか、それ以上にアレルギー患者が増加しています。

日本では、実数は正確に把握されていないとはいえ、10人に1人、あるいは5人に1人はアレルギー病をもつ人がいるとされています。しかも、この数字は毎年確実に上昇しています。

いったい、なぜこの数十年の間に、これほどアレルギー病が増加したのでしょうか。

アレルギーを引き起こす原因は、「遺伝」「環境」「生活習慣」の3つといわれており、なかでも影響力を増しているのが、環境と生活習慣です。血液検査でアレルギー検査をすると、検査項目には、スギ、ハウスダスト、卵、牛乳、小麦、など数十種類ありますが、たとえ陽性反応が出て、アレルギーを起こさない人もいます。簡単にいえば血液検査はアレルギーを発症する「可能性があるかどうか」を調べるためのものであり、発症しないままの人も多く存在します。ですから、いままで発病しないで済んだ人まで、環境の変化によってアレルギー病を起こすようになったわけです。

では何が、アレルギー体質を目覚めさせているのか、指摘されている要因を挙げてみますと、食生活の変化、大気汚染、化学製品の進出、ストレスの増加などがあります。特に食生活の変化では、タンパク質や油分をとりすぎると発症する例が多いようです。飽食の時代ですから、乳児期の頃から肉や揚げ物、スナック菓子などを大量に食べることができるようになり、これもアレルギー発症の原因の一つのようです。

2012年には小学5年生の女の子が、給食のチーズ入りチヂミを食べて亡くなる事故が起きてしまいました。この女の子は乳製品に対してアレルギーをもって、普段は乳製品の入っていない給食を作ってもらっていましたが、おかわりをした時に間違えてチーズ入りを食べてしまったとのことでした。

2013年の文部省の調べでは、全国の小学生のうち、食物アレルギーをもつのは全体の4.5%にあたる約45万人で、2004年に比べて12万人も増えていることがわかりました。また、死までは至らないまでも、ショック症状を経験したことがある小学生は約3万人弱いたそうです。

我々の幼少時代には考えられなかったこの現代病ですが、アレルギー性鼻炎のために集中力や根気が低下し、そのためにせっかくの職場を棒に振ってしまったというケースもあります。そういった人がもし身近にいたら、まずはアレルギーに対して理解してあげることが大切だと思います。

ニコボックス

渡辺喜代彦ニコボックス委員

- ・本日の卓話を金子柱憲プロにお願いしました。金子プロよろしくお願ひします。 鈴木 淑久さん
- ・金子さん昨日は楽しいゲームを紹介していただきありがとうございました。また、本日卓話よろしくお願ひします。 堀 慎治さん
- ・金子プロ、昨日はありがとうございました。18番のバット悔しいです。 湯澤 信雄さん
- ・金子柱憲さん昨日はありがとうございました。本日は卓話よろしくお願ひいたします。 大嶽 達郎さん
- ・先日、嫁が田中宏さんにお世話になりました。ありがとうございます。また、25日より先発隊としてシドニーに行きます。 松波 恒彦さん
- ・告白します。実は私も先週、昼に会場に来てしまいました。

田中 宏さん

- ・5月は家内の誕生日です。きれいなお花、ありがとうございました。
- ・今日8時から病院へ検査に行ってきました。つかれた～。
- ・なかなか、例会に出席出来ず、すみません!

岩本 成郎さん

内田 久利さん

酒井 俊光さん

出席報告

渡辺喜代彦出席委員

会員65名 出席43名 (出席計算人数47名)

出席率 81.1%

5月15日は補填により 90.2%

幹事報告

亀井直人幹事

- ・本日13:40より、ヒルトン名古屋9階「ことぶきの間」にて次年度予定者会議を行います。

新入会員入会式

バッジ・ネームプレート授与：泉憲一会長

このバッジはロータリアンであるという誇りと、奉仕をさせて頂くという謙虚な心で着用することになっております。名札は会員、ビジター、ゲストにあなたの氏名を覚えて頂くのに役立ちます。よろしくお願ひします。

宮澤伸光さん挨拶

みなさまこんにちは。先程ご紹介いただきました、宮澤と申します。よろしくお願ひ致します。RCは初めてではなく、当クラブに入会させて頂き4クラブ目となります。初心に帰ってみなさまのお役に立てるよう、頑張ってくださいと思いますので、ぜひよろしくお願ひいたします。

卓話

プロゴルファー 金子柱憲さん

日本男子プロゴルフ界の現状と未来

今日は「日本男子ゴルフ界の現状と未来」という、少しお堅い

話題です。じつは50歳の時に、早稲田大学の大学院に入学し、そこで少しスポーツビジネスのことを学びました。今日は企業の経営者の方、重要なポジションにいる方々がお集まりになっているので、是非この話をさせて頂きたいと思えます。

研究をしていたとき、三好カントリークラブの泉会長に無理をいって、ゴルフ場のメンバーの方にアンケート調査をとったり、蓬萊軒の鈴木さんにも色々手伝ってもらいました。無事に修士を終える事が出来て、優秀論文賞も頂きました。去年は、日本スポーツ産業学会という学会に何度か投稿して、掲載されました。改めて、泉会長、鈴木さんありがとうございました。

「新たなトーナメントの提案」というのを修士論文のテーマにしました。ご存知の方も多いと思いますが、今の男子ゴルフ界は非常に厳しい状態です。評論家やジャーナリストの方が、「これからどうすればいいか」ということを紙面などで言ってますが、これといったカンフル剤はありません。東京オリンピックが決まって、これから明るい話題も出てくると思います。

国内ツアートーナメントの推移は、男子と女子でほぼ同じ試合数です。2000年辺りまで変わりませんが、2004年から大きく差が開き出します。2004年は、宮里藍選手がデビューし、それに続き横峯さくら選手など、若い選手がどんどん出て来て試合数が増えつつあります。反比例するように男子の試合数が減っていききました。簡単に言うと、男子ゴルフよりも、女子ゴルフに出資する企業が多くなったということです。2008年には石川遼選手がデビューし、私も最初は、「こんな子が本当にいるのか」と驚きました。ジャンボ尾崎さん以来のセンセーショナルな出来事で、「これからゴルフ界も活性化して面白くなるね」と話をしていましたが、それが試合数に反映していません。

今は野球にサッカー、相撲、フィギュアスケートなど、色々なスポーツイベントが目白押しです。テレビでは、どこかのチャンネルで、必ずスポーツイベントが映されます。企業のスポンサーの方も、スポーツイベントに関する費用対効果を厳密に見積もるようになりました。女子と男子のトーナメントを比べても、女子は男子の3分の2程度の費用で開催することが出来ます。そして、メディアへの露出も、男子に引けをとっていません。最近では男子よりも女子の方がメディアへの露出が多いような気がします。そういうことから、なかなか男子ゴルフに企業が出資しないというのが現状です。

2005年の視聴率では女子が平均で9.97%、宮里藍選手が大変活躍されました。それに比べ、男子は4.46%。ただし、ゴルフでは5%前後というのは決して悪い数字ではなく、企業の方も納得していただける数字だと思います。これが2009年には逆転し、女子が8.46%で、男子が9.5%となっています。女子は宮里藍選手がアメリカに行ったあとも若い選手が活躍し、この視聴率を保っていました。男子の視聴率は、間違いなく石川遼選手の影響だと思います。当時は、観客数もトータルで最高60万人程となりました。しかし去年は、30数万人です。40万人切っています。「男子にもスポンサーが増える」と囁かれていましたが、これには裏があります。最終日、石川選手が10以内で迎えたトーナメント、これの平均視聴率が12.59%です。その前後の2008年も10年も10%を超えています。しかし平均は9.5%程です。石川遼選手が予選落ち、または欠場した場合の視聴率はほとんどこの半分になります。石川遼選手が出場しないと、女子を下回ってしまうのが現実でした。

学生のとき、こういったことを調べていると、論文をどう書くか非常に迷った時期がありました。その時の私の担当の教授が平田竹男教授という、早稲田大学の教授でありながら内閣官房参与到に抜擢された方です。平田教授に「何を書けばいいのかわからない」と相談しました。調べていくうちにゴルフ界を活性化していく要素がないことに気づいたのです。平田教授は、私に「金子さん、論文なんかどうでもいいんですよ。金子さんはアスリートなんですから、経験と人脈を使って、金子さんオリジナルのトーナメントを作りましょうよ。」と言いました。それを論文とすることでした。この言葉で吹っ切れて、トーナメントを考えることにしました。

まず第1に、今までのトーナメントに固執しないで「オリジナルティーのあるトーナメント」にすること。二つ目に「ゴルフの特性を活かすトーナメント」が出来ないか。これを基本にインタ

ビューに回りました。まずは色々なトーナメントを経験されている、プロゴルファーの青木功さんにインタビューをさせていただきました。他にゴルフ場経営者の方、実際のトーナメントのスポンサーをしている企業の経営者、大会のプロデューサーの方などに、「なぜトーナメントをするのか」「どういうメリットがあるのか」等ざっくばらんに話をさせて頂きました。みなさん共通して仰るのは、「ジュニアの育成教育」「企業のメリット」「選手の質の向上」「地域密着」。これは私が後付けしたのですが「オリンピック」。16年のリオのオリンピックから112年ぶりにゴルフが復活し、20年には東京オリンピックと、これからゴルフが目目されていくのは間違いのないはずですよ。

こういった要素を融合させて、プロとジュニアの混合トーナメントが出来るとは思いませんかと考えました。これにより、前述の要素が新たな要素を生み出す可能性もあるんじゃないかと思いました。このプロ・ジュニア混合トーナメントは、ジュニアがプロの試合を生で感じることで、育成普及についての新たなプランとなり得るのではないかと思います。「企業のメリット」は、企業の方々には多様な考えをお持ちで、一つにまとめられませんが、こうした新たな取り組みを行う事によって、ゴルフに興味のなかった企業にアプローチできるのではないかと思います。「選手の質の向上」は、ジュニアと接することによってプロ選手の「プロらしさ」というものを省みることになり、プロとしての自覚を持ってくれるようになると思います。そして「地域密着」。これはゴルフには欠かせません。地元の方の協力無しでは出来ません。そして「オリンピック」です。

プロ・ジュニア混合トーナメントは、より多くのジュニアがトッププロと競技するトーナメントです。プロの試合に出られるジュニアの選手は全国でも一握りで、オープン競技では、一人か二人出られるか出られないかです。私はこの一握りの子以外に、その下の層の子たちも出してしまおうと考えました。これでモチベーションがあがり、今まで難しかったものが、もうひと頑張りすることでトーナメントに出られるようになります。それは、セカンドレベルの子たちだけではなく、サードレベルの子たちまで波及すると考えられます。子どもたちに「今後やりたいスポーツ」をアンケートした結果では、ゴルフは13位。また、親に聞いた「今後子どもにさせたいスポーツ」ではゴルフは1位です。これだけ親と子どもにギャップがありますが、こうしたトーナメントがあれば潜在層の拡大につながるのではないかと思います。

トーナメントの具体的な内容として、プロの数を減らさず、なおかつジュニアはたくさん出場させてあげたい。プロとジュニアと一緒に競技することが重要なので、ジュニアは土日のみ、プロは通常通りのトーナメントを行います。一つ違うのは、決勝ではプロ2名とジュニア1名で回ると言うことです。アメリカのシニアツアーでは、ジュニアとゲストアマチュア2名とプロ1名の4名で回るトーナメントが実際にあります。日本でもこうしたトーナメントに賛同する企業が現れてくれたら、非常に有意義なものになると思います。

実は、今年開催出来るかもしれないというところまでいきましたが、企業側の問題があり、結局は開催することができませんでした。それでも、そういう企業がいらっしやったということは間違いのないことです。一人の力ではなんともならないので、スポンサーを探したいと考えています。

今日は真面目な話になってしまいましたが、これで終わらせて頂きたいと思えます。ありがとうございました。

例会のご案内

■今週の卓話 5月29日(木)

会員卓話：湯澤勇生さん、大嶽達郎さん、鈴木淑久さん
テ－マ：他クラブを訪問して

■次週の卓話 6月5日(木)

卓話講師：アサヒビール(株)名古屋工場醸造部長
菱田智昭さん
テ－マ：ビールを楽しもう!

■次々週卓話 6月12日(木)

卓話講師：はせがわクリニック院長 長谷川隆さん
テ－マ：ガーナにおける医療支援活動